連載8

郷土を守り、未来へつなぐ。

津波対策事業推進特別委員会

美しい郷土を後世に伝える防潮堤に

浜松商工会議所で津波対策事業推進特別委員会の副委員長を務める、釣り具のイシグロ社長、石黒衆氏。浜松の企業人として、また、子どもの頃からの自然体験を通して、自然と共生する防潮堤の必要性を会員企業等に説いている。

浜松商工会議所
津波対策事業推進特別委員会
副委員長　石黒 衆

株式会社イシグロ　代表取締役社長
1952年創業。釣りを中心としたアウトドアレジャー産業を展開。環境保護活動にも積極的に取り組んでいる。

――石黒社長の考える防潮堤とはどのようなものですか

「東日本大震災の教訓をどう生かすか。あのような地震被害をこの地で起こしてはいけないという思いから始まった防潮堤整備は、津波に対する市民の安全・安心を前提とし、かつ、遠州の素晴らしい自然環境と恵みに感謝し、オール浜松市民の知恵と参加で進められています。みんなの力で完成させて、文化と誇りを後世に伝承できる防潮堤になることを願っています」

――津波対策事業推進特別委員会の取り組みを教えてください

「浄財（寄付）を募るということの前に、会員企業のみなさんには、地域に育ててもらったことへの感謝や、企業人として社会的責任についても話をします。整備にかかる金額など具体的な意見も出てきますが、工法のことや、自然と共生するモデルとなる防潮堤であることを説明し、理解を頂いています」

――防潮堤整備に対する要望はありますか

「より多くの市民が、素晴らしい海辺の遠州灘海岸で〝ホッとできる憩いの場〟になる防潮堤に整備していくべきだと考えます。平時は展望や散策、釣り、スポーツが楽しめる施設であること。

具体的には、

○海岸・砂丘の保全
○砂丘へのエントリー通路の確保
○遊歩道の整備
○便利で余裕のある駐車場やトイレ等の設置

は必ず必要だと思います。

また、なぜ防潮堤がつくられたのか、造形物（防潮堤）にストーリーを付加することで、市民の思いが次世代に受け継がれていくのではないでしょうか」

――自然、特に海との共生をどのように考えますか

「子どもの頃、佐鳴湖周辺や天竜川、浜名湖、そして中田島砂丘でよく遊んだものでした。せっかく作った砂の彫像を、太平洋の荒波が一気にさらっていきビックリした経験もいい思い出です。故郷の自然に育ててもらい、その自然に感謝の気持ちでいっぱいです。

防潮堤ができることで人と海との関わりが減ってしまっては意味がないのです。海と共生することによって、都市的体験だけでは学習できない、憧れや怖さといった自然への畏敬の念を身に付けることができるはずです。自然は、人間の精神的発達を助け、理念的判断しかできない座学を飛び越えた、命あるものを大切にするという人間形成の教育に役立つと考えます。

いま私は、釣り具店という、自然と共生しなければ成り立たない職業を授けてくださった神様に感謝している毎日です」

――浜松の未来を担う子どもたちへの教育についてひとこと

「子どもたちの日常生活が自然との接触機会を失っている中、素晴らしい自然環境に触れさせることが、心豊かな人間をつくる原点ではないでしょうか。天竜川や浜名湖など故郷の美しい自然によって、人間生活が豊かになり、新しい文化が生まれてきた現実を正しく理解させ、自然に対して素直に感謝できる人間に育てていかなければならないと感じています」

浜松商工会議所は防潮堤整備促進のために1日100円寄付運動を推進しています。

13億7,696万6,683円

1,749件
※11月7日現在